

西洋建築史第2回

古代1 - ギリシア・ローマの建築

中島 智章

序.『建築十書』のビルディングタイプ論

アエディフィカティオ

aedificatio= 公共建築(軍事+ 宗教+ 実用)+ 住宅建築

実用建築 港、フォルム、柱廊、浴場、劇場、遊歩廊

第1書:理論、都市、都市防御施設

第2書:建築の起源、構法と材料

第3書:神殿、イオニア式

第4書:コリント式、ドリス式、神殿

第5書:公共建築(フォルム、バジリカ、劇場、浴場、港)

第6書:私的建築(都市住宅、田園住宅)、理論

第7書:壁床天井仕上げ、絵画論、塗料

第8書:水利学(水源、水質、水道、井戸)

第9書:天文学、時計

第10書:建設機械、水利機械、武器、防御

1.古代ギリシアの建築 - アテナイのパルテノン神殿 -

神殿建築 アクロポリス(神域)= 神殿建築複合体

木造建築に由来するといわれる円柱

アルカイック期の神殿 太いドリス式円柱(正面の柱数が奇数の場合も パエストゥウムのヘラ第1神殿)

古典(ヘレニック)期の神殿 ドリス式(アテナイのパルテノン神殿)、イオニア式(アテナイのエレクトイオン)

ヘレニスティック期の神殿 コリント式の登場(アテナイのオリュンピエイオン)

神殿建築の語彙はウィトルウィウスの『建築十書』を通じて後世に伝わっている(一部はラテン語化されて)

神殿の平面形式: イン・アンティス プロステュロス アンフィプロステュロス ペリプテロス プセウドディプテロス ディプテロス
In antis, Prostylos, Amphiprostylos, Peripteros, Pseudodipteros, Dipteros (露天式)

intercolumniation: ピュクノステュロス シュステュロス ディアステュロス アラエオステュロス エウステュロス
Pycnostylos(3M), Systylos(4M), Diastylos(6M), Araeostylos, Eustylos(4.5M)

ステュロパテス エピステュリオン テュンパノン アクロテリオン
Stylobates 柱礎(base) 柱身(shaft) 柱頭(capital) Epistylion 中間帯 頂冠帯 Tympanon Acroterion

後世、柱上帯、中間帯、頂冠帯はarchitrave, frise, corniceと呼ばれ、まとめてentablatureと称する

円柱の様式:ドリス式(太い円柱 = 男性の肢体)

イオニア式(細い円柱 = 婦人の肢体)

コリント式(イオニア式の垂種 = 乙女の肢体)

劇場 元々は古代ギリシアの神事の一環であり、神域に建造された

地形を活かしてすり鉢状の観客席 = テアトロン(theatron) テアトルム(theatrum)

中央に合唱隊(コロス)が舞い歌う円形の舞台 = オルケストラ(orchestra)

後方に舞台と背景建築(楽屋も兼ねる) = スケーネー(skene) スカエナ(scaena)

やがて、古代ローマの土木工学技術により、テアトルム自体が人工建造物によって建造されるようになる

競技場(stadion)、スタディオ 体育場(gymnasion)ギムナシオン

記念建築(ヘレニスティック期) 有力者の恵与指向 リュシクラテス記念堂 = 競技に優勝した合唱隊指揮者

都市建築 アゴラ(広場)、ストア(柱廊) グリッド・プラン(ミレトス) 景観重視(プリエネ、ベルガモン)

2. 古代ローマ神殿と装飾化する円柱

古代ローマの神殿建築

共和制期 ~ BC27 ユリウス・カエサルなど

フォルトゥーナ・ウィリーリス(男運女神)の神殿、サトゥルヌス神殿(国庫)、ユリウス・カエサル神殿

ユリウス=クラウディウス朝(Augustus, Tiberius, Caligula, Claudius, Nero) BC27-AD68

サトゥルヌス神殿(国庫)、カストルとポルルクス神殿、南仏ニームのメゾン・カレ(ローマ神殿の正面性)

ウェスタ神殿(円形)、平和の祭壇、アウグストゥス帝のフォルム、マルケッルス劇場(ローマのドリス式)、オスティア港
ギリシア神殿のようにアクロポリスの丘に築かれるのではなく、

都市の中に道路や広場に面して建設される

ギリシア神殿の彫塑性、ローマ神殿の正面性

ニームのメゾン・カレ

帝政初期の紀元1世紀初頭に建設された神殿

ガイウス・カエサル(アウグストゥス帝の孫)とルキウス・カエサル(同帝の養子)に捧げられた神殿

通称「メゾン・カレ(方形の家)」

ほぼ完全な形で現存するローマ神殿

正面にコリント式の円柱が6本並ぶ六柱式神殿

全30本の柱のうち、真の独立円柱は前方の10本のみ

残りの20本は壁体の一部をなす装飾要素

正面についた15段の高い階段を備えた基壇(ポディウム)上に建つ

3. 古代ローマ建築の構法 - コロッセウムとパンテオン -

69年の内乱(Galba, Otho, Vitellius)

フラウィウス朝(Vespasianus, Titus, Domitianus) 69-96

ウェスパシアヌス帝のフラウィウス闘技場 テイトゥス帝治下に完成、テイトゥス凱旋門

円形闘技場 = アンフィテアトルム

古代ローマ固有のビルディング・タイプ

軸組構造ではなく壁構造(アーチ構法やコンクリート壁を旨とする古代ローマ建築の極地)

円柱は構造材ではなくアーチ構造の外に施された装飾と化す

円柱の積み重ねの技法: ドリス式 イオニア式 コリント式 その亜種

五賢帝時代(Nerva, Trajanus, Hadrianus, Antoninus Pius, Marcus Aurelius Antoninus) 96-180

トラヤヌス帝のフォルムと市場、トラヤヌス記念柱、パンテオン、アントニヌス = ピウスとファウスティーナ神殿

パンテオン(汎神殿) 直径43メートルのクーポラ(ドーム)建築

4. 古代地中海世界の都市住宅

中庭(Atrium, Peristylum)を中心として周りに部屋を

ローマへ人口流入 インストラ(島)とよばれる集合住宅 『建築十書』第2書で少しだけ触れられている

宮殿建築とウィツラ

パラティヌムの丘

ネロ帝のドムス・アウレア(Grotesque)

ハドリアヌス帝のヴィツラ(「建築家皇帝」お気に入りの場所を再現)